

## 【ポイント】

### 内政

- モレイラ住宅土地整備大臣は大臣職を辞任、上院議員の職に戻る旨発表。ラウル・ロサーノ上院議員が後任の住宅土地整備大臣に就任。
- 30日、当国世論調査会社 OPCION 社は、ラカジェ・ポウ政権支持率世論調査結果を発表。「非常に良い」15%、「良い」28%、「良くも悪くもない」24%、「悪い」17%、「非常に悪い」14%、「分からない・無回答」2%であった。

### 外交

- 8日、香港に到着したマツス農牧水産大臣は、その後マカオ、広東省深セン市、河南省鄭州市、内モンゴル、上海、吉林省、山東省、北京を訪問。
- 16日、ウルグアイと韓国の国防省は、両国軍隊の学術交流、訓練、研修、派遣準備等の協力を可能とさせる、PKO分野の協力に関する覚書に署名。
- 19日、ブスティージョ外相は、当国を訪問した欧州議会国際貿易委員会(INTA)メンバーとの会談を実施。
- 23日、ブスティージョ外相は、当国を訪問したアーデル・アル・ジュベイル・サウジアラビア外務担当国務大臣と会談を実施。
- 29日、ペニャ・パラグアイ新大統領が当国を訪問し、ラカジェ・ポウ大統領と会合を実施。
- 30日、ラカジェ・ポウ大統領は、ルーラ伯大統領の招待で、ブラジリアで開催された南米諸国首脳会合に出席。

### 経済

- 9日、5G展開のための3.5GHz帯の割当てにかかる入札が行われ、クラロ社及びモビスター社が落札。
- 米格付会社ムーディーズ社は、ウルグアイの公的債務に関する見通しを「安定」から「ポジティブ」に引上げ。

## 【本文】

### 1 内政

#### (1)モレイラ住宅土地整備大臣の辞任

3日、モレイラ住宅土地整備大臣が、抽選を経て提供すべき住宅を、抽選なしに自身が所属するカビルド・アビエルト党の党員に供与していたことが発覚。5日、ラカジェ・ポウ大統領は、マニーニ・リオス・カビルド・アビエルト党首(モレイラ大臣の夫。)に対し、モレイラ大臣を大臣職から辞任させることに同意を求めたが、マニーニ・リオス党首はそれを拒否した。ラカジェ・ポウ大統領は、モレイラ大臣に電話をし、直接辞任を求め、その後、モレイラ大臣は記者会見を開き、大臣職を辞任、上院議員の職に戻る旨発表した(注:同大臣は、2019年の議員選で上院議員として当選している。任期は2020年~2025年。)。5月9日付でラカジェ・ポウ大統領は退役軍人でカビルド・アビエルト党副党首のラウル・ロサーノ上院議員を住宅土地整備大臣に任命した。

#### (2)干ばつによる水不足と水質悪化問題

9日、ランド厚生大臣は記者会見を行い、何ヶ月も前から続く干ばつが首都圏に水不足の影響を及ぼしており、これを理由に衛生公社(OSE)が水道飲料水の供給を保護するための戦略を実施した旨発表。同大臣は、今次

措置の対象は、モンテビデオ県、カネロネス県、及び首都圏全域であると伝えた。厚生省は、高血圧症患者ではない人は日常的に水道飲料水の消費を継続しても問題ないが、専門家によると、離乳食が始まった子どもへの食事には塩を加えないことが望ましく、可能であれば乳児にはミネラルウォーターを使用すべきとしている。15日、デルガド大統領府長官は、ランド厚生大臣、ブビエル環境大臣、モンテロ OSE 総裁等と首都圏の水道飲料水供給状況を分析するための会議を実施。翌16日、デルガド長官は、レマ社会開発大臣、ランド厚生大臣、及びブビエル環境大臣とともに記者会見を行い、首都圏における水質保護のための措置を発表。同措置には、ダム建設や、稼働が見込まれているウルグアイ技術専門学校(UTEC)が設計した海水淡水化プラントを政府が取得すること、漏水修理の迅速な対応等が含まれている。さらに同日、モンテビデオ県庁は、モンテビデオ以外の県で商品販売許可を有する者が、モンテビデオ県庁の販売許可申請を行わなくてもミネラルウォーターを販売できる措置を行う旨発表。同措置は、水不足危機の枠組で、5月17日から6か月間施行される。

### (3) ラカジェ・ポウ政権支持率世論調査結果

30日、当国世論調査会社 OPCION 社は、5月15日～22日にかけて全国18歳以上の849名を対象に実施したラカジェ・ポウ政権支持率に関する世論調査結果を発表。2023年5月時点のラカジェ・ポウ政権運営に関する評価は、「非常に良い」15%、「良い」28%、「良くも悪くもない」24%、「悪い」17%、「非常に悪い」14%、「分からない・無回答」2%であった。同世論調査会社は、国民の43%(非常に良い・良い)が現政権の国政運営を支持しており、過去4四半期間、非常に安定していると評価している。

## 2 外交

### (1) チリ・ウルグアイ外務次官電話会談

アルベルトーニ外務次官は、サンウエサ・チリ外務省国際経済担当次官との電話会談を実施。両次官は、二国間アジェンダの様々なテーマについてレビューし、またアルベルトーニ外務次官は、CPTPP 加入に向けたウルグアイの関心を強調した。

### (2) マツス農牧水産大臣の中国訪問

8日、香港に到着したマツス農牧水産大臣は、香港に加え、マカオ、広東省深セン市、河南省鄭州市、内モンゴル、上海、吉林省、山東省、北京を訪問。北京に到着したマツス大臣は、コンラド・フェルペール・ウルグアイ食肉協会(INAC)会長とともに INAC 北京事務所の開所式を行った。マツス大臣は、Lu Weihong 中国税関総署副署長との会談を行い、両者は本年4月に行った第7回衛生植物検疫措置委員会の議事録に署名を行った。また、マツス大臣は、唐仁健農業農村部長及び Tian Xuebin 水利部副部長との会談を実施し、漁業分野の発展と強化のための覚書に署名を行った。さらにマツス大臣は、9月に北京で開催される「世界水会議」にウルグアイ政府と農牧水産省が参加することを確認した。

### (3) オランダのロッテルダム港当局との覚書の署名

10日、ペリ工業エネルギー鉱業次官及びオライソラ運輸公共事業次官は、オランダのロッテルダム港当局とともに、グリーン水素とその副産品、特に輸出に向けたものに関する経済的に実行可能な社会プロジェクトにおける協力の深化を目的とした覚書に署名を行った。本協定を通じて、ウルグアイ政府は、エネルギー転換と再生可能エネルギー源の多様化の10年という枠組の中で、ウルグアイを欧州におけるグリーン水素供給国の一つに位置づけようとしている。

### (4) 第8回エクアドル・ウルグアイ政策協議

12日、アルベルトーニ外務次官及びバジャス・エクアドル外務副大臣は、第8回エクアドル・ウルグアイ政策協議を実施。同協議では、貿易、投資、及び協力に関する二国間アジェンダのレビューを行った。

#### (5) 韓国とのPKO分野の協力に関する覚書の署名

16日、ウルグアイと韓国の国防省は、両国軍隊の学術交流、訓練、研修、派遣準備等の協力を可能とさせる、PKO分野の協力に関する覚書に署名を行った。ガルシア国防大臣は、「両国は、地理的に離れてはいるが、ここ2～3年の間に、国防及びPKO協力の分野で良い関係を築いてきている。」と述べた。

#### (6) 欧州議会国際貿易委員会代表団の当地訪問

19日、ブスティージョ外相は、当国を訪問した欧州議会国際貿易委員会 (INTA) メンバーとの会談を実施。同会談では、(EU メルコスール FTA の) 交渉に関する現状分析が行われ、ウルグアイ及び EU は、EU メルコスール FTA の具体化を促進するコミットメントを再確認した。また同委員会メンバーは、18日にアルベレチェ経済財務大臣との会談も行った。

#### (7) ブスティージョ外相とサウジアラビア外務担当国務大臣の会談

23日、ブスティージョ外相は、当国を訪問したアーデル・アル・ジュベイル・サウジアラビア外務担当国務大臣と会談を実施。両大臣は、ウルグアイの国益にとって優先となる地域において、食糧及びエネルギー分野における貿易・投資の機会を深化させることに関して協議した。

#### (8) ペニャ・パラグアイ新大統領の当国訪問

29日、ペニャ・パラグアイ新大統領が当国を訪問し、ラカジェ・ポウ大統領と会合を実施。ペニャ新大統領は、ラカジェ・ポウ大統領との会合において、ラカジェ・ポウ大統領に対し、「(パラグアイは) 統合プロセスにおける声になりたい。メルコスール内で交渉するというのがパラグアイの立場である。パラグアイは、メルコスール内で、ブロックとして交渉する方が常に望ましいと理解している。他方、ウルグアイの感じている不満も理解しており、それはパラグアイも同じく抱いている感情で、進んでいるとはいえ、まだまだ先は長いと言うことだ。」と伝えたと述べた。また、ペニャ新大統領は、セルヒオ・アブレウ・ラテンアメリカ統合連合 (ALADI) 事務局長との会談も実施し、同会談後に「パラグアイは、ALADI や南米諸国連合 (UNASUR) を含む、全ての地域統合機関の強化を模索する。」と述べた。

#### (9) ラカジェ・ポウ大統領の南米諸国首脳会合出席

30日、ラカジェ・ポウ大統領は、ルーラ伯大統領の招待で、ブラジリアで開催された南米諸国首脳会合に出席。ラカジェ・ポウ大統領は、ラカジェ・ポウ政権発足時に離脱した UNASUR をルーラ伯大統領が復活させようとしていることを残念に思っている旨述べ、これらの組織 (注: UNASUR をはじめとする多国間組織を示唆。) はイデオロギーがマッチングする限り続く「イデオロギークラブ」であり、そのような組織はもうたくさんだと発言。またラカジェ・ポウ大統領は、組織設立の動きは止めるべきであり、行動に移そうと呼びかけ、ポリッチ・チリ大統領やラッソ・エクアドル大統領が提案した大災害に対する対応等、南米の政府は特定の問題に対処するために協調すべきであると述べた。またラカジェ・ポウ大統領は、二国間関係を前進させることが必要であると強調し、アルゼンチンとの海や川に関する境界問題や、パラグアイ、ボリビア、及びアルゼンチンとの水路問題 (注: パラグアイーパラナ河川水路問題を示唆。) について言及した。

### 3 経済

#### (1) 5G周波数オークション

9日、5G展開のための3. 5GHz帯の割当てにかかる入札が行われ、クラロ社 (注: アメリカモビル社 (墨) 傘下) が3300-3400MHzブロックを2, 810万米ドルで、モビスター社 (注: テレフォニカ社 (西) 傘下) が3700-3800MHzブロックを2, 805万米ドルで落札した。また、国営通信公社 (ANTEL) は、予め確保されていた3600-3700MHzブロックを、上記2社の落札価格平均の2, 807. 5万米ドルで獲得することになった。

## (2) 格付会社ムーディーズ社による格付評価

米格付会社ムーディーズ社は、ウルグアイの公的債務に関する見通しを「安定」から「ポジティブ」に引き上げた。また格付評価に関しては「Baa2」としており(注: 昨年の当地主要紙の報道によると、ムーディーズ社による格付評価は昨年「Baa2」を維持。)、これは投資適格の基準値を1つ上回っている。今次見通しの引き上げは、7年前にムーディーズ社が「ネガティブ」から「安定」に引き上げて以来のものとなる。今次格上げの決定は、堅固な経済成長の見通し、順調な財政政策の実施、及び公的債務の負担を削減することを目指した財政ルールの実施に取り組む政府のコミットメントに基づいている。また、(経済)危機への効果的な政策や政治・社会の安定性を維持する制度及びガバナンスの強さも強調された。

## 4 要人往来

### (1) 往訪

- ・3日～27日: マツス農牧水産大臣のイタリア、中国訪問(公式訪問)。
- ・9日～10日: ダ・シルベイラ教育文化大臣のスペイン訪問(第5回大学学長国際会議出席。)
- ・13日～21日: ブッファ農牧水産次官の韓国訪問(韓国・ラテンアメリカ・カリブ地域協力フォーラム2023出席。)
- ・26日～29日: ビエラ観光大臣のエクアドル訪問(第68回国連世界観光機関(UNWTO)米州委員会出席。)
- ・29日～30日: ラカジェ・ポウ大統領及びブスティージョ外相のブラジル訪問(南米諸国首脳会合出席)。

### (2) 来訪

- ・29日: ペニャ・パラグアイ新大統領の当地訪問。
- ・12日: バジャス・エクアドル外務副大臣の当地訪問。
- ・18日～19日: ベルト・ランゲ欧州議会国際貿易委員会(INTA)委員長他の当地訪問。